

< 報道発表資料 >

令和 8 年 6 月 29 日

京都市交通局企画総務部企画調査課

市バス・地下鉄のお客様数（令和 7 年度速報値）

- ◆ 市バス事業、地下鉄事業とも、お客様数、運賃収入は前年度を上回る
- ◆ 市バス事業のお客様数はコロナ禍前には及ばず
- ◆ 地下鉄事業のお客様数、運賃収入は過去最高を更新
- ◆ 両事業合わせたお客様数は初めてコロナ禍前を上回る
- ◆ 両事業合わせた運賃収入は過去最高を更新

【概要】

お客様の御利用状況は、両事業とも定期（通勤・通学）、定期外ともに増加し、年間を通じたお客様数は、前年度を上回りました。コロナ禍前（令和元年度）（以下「コロナ禍前」という。）との比較では、市バスは▲3.4%となったものの、地下鉄は+3.6%となり、過去最高を記録した前年度を更に上回るお客様数となりました。また、両事業合わせたお客様数は+0.3%と、コロナ禍前を初めて上回りました。

運賃収入は、両事業ともお客様数の回復により前年度を上回り、また、コロナ禍前との比較では、平均乗車単価の改善の効果もあり、両事業とも上回りました。地下鉄については過去最高を記録した前年度を更に上回る収入となりました。

< 令和 7 年度の 1 日あたりのお客様数及び運賃収入（税抜） >

- ・市バス 「346千人/日」、「213億円」
- ・地下鉄 「416千人/日」、「272億円」
- ・両事業合計「762千人/日」、「485億円」

< 前年度(令和 6 年度)比較 >

- ・市バス 「+6千人(+2.0%)」、「+5億4千万円(+2.6%)」
- ・地下鉄 「+1万4千人(+3.4%)」、「+9億5千万円(+3.6%)」
- ・両事業合計「+2万0千人(+2.7%)」、「+14億9千万円(+3.2%)」

< 新型コロナウイルス感染症の流行前である令和元年度比較 >

- ・市バス 「▲1万2千人(▲3.4%)」、「+12億6千万円(+6.3%)」
- ・地下鉄 「+1万4千人(+3.6%)」、「+14億3千万円(+5.6%)」
- ・両事業合計「+2千人(+0.3%)」、「+26億9千万円(+5.9%)」

< 市バス・地下鉄 1 日あたりのお客様数 >

	令和元年度	令和 6 年度	令和 7 年度	R7/R6比	R7/R1比
市 バ ス	35万7千人	34万0千人	34万6千人	+ 2.0%	▲ 3.4%
地 下 鉄	40万0千人	40万2千人	41万6千人	+ 3.4%	+ 3.6%
両事業合計	75万7千人	74万2千人	76万2千人	+ 2.7%	+ 0.3%

(注) 元年度比については、令和 3 年 4 月実施の「定期旅客数の計上方法の見直し」による影響等を補正しているため、表中の旅客数の差引及び減少率とは一致しません。

1 令和7年度のお客様の御利用状況

令和7年度の1日当たりのお客様数は、対前年度比で市バスが+6千人(+2.0%)、地下鉄が+1万4千人(+3.4%)となりました。

コロナ禍前との比較では、市バスは▲1万2千人(▲3.4%)とコロナ禍前まで戻らず、地下鉄は+1万4千人(+3.6%)とコロナ禍前の水準を上回り、過去最高となりました。

● 「定期外」のお客様数（1日当たり）

対前年度比では市バスが+2.2%、地下鉄が+3.8%、コロナ禍前との比較でも、市バスが+2.8%、地下鉄が+6.5%となり、両事業ともコロナ禍前の水準を上回りました。

● 「定期」のお客様数（1日当たり）

通勤定期については、対前年度比で市バスが+5.0%、地下鉄が+4.1%、コロナ禍前との比較でも、市バスが+7.5%、地下鉄が+7.0%となり、両事業ともコロナ禍前の水準を上回りました。

通学定期(大学)については、対前年度比で市バスが+5.6%、地下鉄が+3.6%、コロナ禍前との比較でも、市バスが+3.6%、地下鉄が+1.7%となり、両事業ともコロナ禍前の水準を上回りました。

定期全体では、対前年度比で市バスが+4.0%、地下鉄が+3.4%、コロナ禍前との比較でも、市バスが+3.4%、地下鉄が+4.5%となり、両事業ともコロナ禍前の水準を上回りました。

[市バス]

(注)内訳は主なものを記載

	令和元年度	令和6年度	令和7年度	R7/R6比	R7/R1比
市バス全体	35万7千人	34万0千人	34万6千人	+2.0%	▲3.4%
定期外	18万7千人	18万8千人	19万2千人	+2.2%	+2.8%
定期	9万6千人	9万7千人	10万0千人	+4.0%	+3.4%
通勤	7万2千人	7万4千人	7万8千人	+5.0%	+7.5%
通学(大学)	1万7千人	1万7千人	1万8千人	+5.6%	+3.6%

[地下鉄]

(注)内訳は主なものを記載

	令和元年度	令和6年度	令和7年度	R7/R6比	R7/R1比
地下鉄全体	40万0千人	40万2千人	41万6千人	+3.4%	+3.6%
定期外	20万8千人	21万4千人	22万2千人	+3.8%	+6.5%
定期	16万8千人	17万1千人	17万7千人	+3.4%	+4.5%
通勤	10万9千人	11万3千人	11万8千人	+4.1%	+7.0%
通学(大学)	4万0千人	4万0千人	4万1千人	+3.6%	+1.7%

(注) 全体及び定期の元年度比については、令和3年4月実施の「定期旅客数の計上方法の見直し」による影響等を補正しているため、表中の旅客数の差引及び減少率とは一致しません。

≪各月のお客様数及び対元年度、対6年度の増減率≫

(単位：千人／日)

	市バス			地下鉄			両事業		
		R7/R6比	R7/R1比		R7/R6比	R7/R1比		R7/R6比	R7/R1比
4月	367	+1.7%	▲10.4%	420	+2.8%	+0.4%	787	+2.3%	▲4.8%
5月	359	+3.1%	▲3.2%	434	+2.4%	+1.6%	792	+2.7%	▲0.6%
6月	351	+3.4%	▲3.5%	428	+3.1%	+2.4%	779	+3.3%	▲0.4%
7月	348	+2.3%	▲5.8%	428	+2.6%	▲1.0%	776	+2.4%	▲3.3%
8月	327	+2.5%	▲7.4%	390	+4.4%	▲0.8%	717	+3.5%	▲4.0%
9月	343	+2.1%	▲11.2%	391	+4.3%	▲7.0%	733	+3.3%	▲8.9%
10月	365	+2.7%	▲0.8%	436	+4.4%	+6.8%	802	+3.6%	+3.2%
11月	370	+0.1%	▲6.4%	450	+2.1%	▲0.1%	820	+1.2%	▲3.0%
12月	342	+1.2%	▲3.2%	424	+2.4%	+4.0%	767	+1.8%	+0.6%
1月	318	+3.1%	▲6.5%	383	+3.5%	▲0.1%	701	+3.3%	▲3.1%
2月	331	+1.4%	注 ▲6.8%	401	+4.1%	注 +3.5%	732	+2.9%	注 ▲1.1%
3月	335	+0.4%	注 ▲6.8%	404	+4.8%	注 +4.5%	739	+2.8%	注 ▲0.9%
年平均	346	+2.0%	▲3.4%	416	+3.4%	+3.6%	762	+2.7%	+0.3%

(注) 令和元年度の2月、3月は新型コロナの影響があったため平成30年度比を記載

2 令和7年度の運賃収入

(単位：百万円【税抜】)

	令和元年度	令和6年度	令和7年度	令和6年度対比		令和元年度対比	
				増減額	増減率	増減額	増減率
市バス	20,015	20,735	21,270	535	+2.6%	1,255	+6.3%
地下鉄	25,778	26,260	27,210	950	+3.6%	1,432	+5.6%
両事業合計	45,793	46,995	48,480	1,485	+3.2%	2,687	+5.9%

- 運賃収入は、お客様数の回復により、対前年度比で市バスが+5億35百万円(+2.6%)、地下鉄が+9億50百万円(+3.6%)、コロナ禍前比較でも、お客様数の回復に加え、平均乗車単価の改善により市バスが+12億55百万円(+6.3%)、地下鉄が+14億32百万円(+5.6%)と両事業ともコロナ禍前の水準を上回り、地下鉄については過去最高を更新しました。

<お問合せ先>

京都市交通局企画総務部企画調査課

電話：075-863-5094

参考 1日当たりのお客様数の推移とコロナ禍前との減少率

